

入来の丘から

1m 望遠鏡仮眠施設

永山 貴宏 (鹿児島大学)

1m 望遠鏡には、これまできちんとした仮眠室やシャワーがありませんでした。そのため、観測者は観測室内のソファベッドに布団を敷いて寝るなどしていました。学生によってはソファベッドよりも自分の寝袋のほうが寝やすいと感じ、寝袋を持ち込んでいる学生もいました。また、2人以上で観測する場合、特に男性と女性で観測する場合には、片方が徒歩 10 分程度の国立天文台 VERA 入来局の仮眠室を借りていました。また、観測室で寝泊まりしている人も 1m 望遠鏡にはシャワーがないため、VERA までシャワーを借りるために移動していました。ご存じの方も多いかと思いますが、1m 望遠鏡は入来牧場の中にあります。通路は整備されているものの、その両脇には牛や馬の放牧スペースが広がっています。昼間はのどかで、サファリパークに入り込んだかのような雰囲気ですが、夜間は真っ暗（天体観測には最適！）で、周囲があまり見えず、その中で突然、牛が鳴いたりすると、かなりビックリします。また、天気の良い日や寒い日に VERA まで往復するのはなかなか大変です。このような環境は不便だけでなく、安全面でも好

ましくありません。また、ここ数年、毎年のように学長や理事が 1m 望遠鏡の視察に訪れ、特に「女性が安全に研究に従事できるように配慮しなさい」とコメントを頂いておりました。

そのような状況を改善するには、どうするのがよいかということ考えたとき、やはり真っ先に思いつくのは、VERA との移動、特に夜間の移動をなくす（減らす）こと、各個人のパーソナルスペースを確保すること、というあたりまえの結論となりました。より具体的には、1m 望遠鏡の直近、可能なら棟続きで、きちんと仕切られた仮眠室とシャワーを設置することです。しかし、このご時世、特に設置から 20 年以上経過した望遠鏡にたいして、このような設備を追加する予算を獲得することは、絶望的に難しいと思っていました。しかし、今回は学長からのコメントもありましたので、思い切って 2024 年度の学長裁量経費に「1m 光赤外線望遠鏡の観測環境の改善 — 学生がより安全に天体観測をするために —」というタイトルで応募しました。その結果、ありがたいことにこの申請が認められ、めでたく 2024 年

度に仮眠施設を増築することができるようになりました。

こちらの希望を施設部に伝え、間取りなどを相談し、さらに学長をはじめとする大学執行部の先生方のコメントにより修正された結果、1m 望遠鏡の西側、玄関入って、観測室から反対側に接続する形の棟続きで仮眠施設が作られることとなりました。棟続きであることは些細なことですが重要で、



図 1: 仮眠棟の基礎工事



雨が降っているとき、強風のとき、かなり寒いときでも、濡れず、凍えず、安全に移動することができます。仮眠施設には、個室（仮眠室）×2、シャワー×2が設置されました。また、観測室内も、これまでは男女共用で1つしかなかったトイレが、1つ増設され、男女別になりました。また、台所の水栓も混合栓となって、地味に便利になりました。

工事は2024年10月から始まりました。私が思っていたよりも本格的な工事で、地面を50cm程度は掘り返して、しっかりと基礎工事をしていただきました（図

1）。壁には最新の断熱材を入れてもらい、窓も保温性の高いものを使っていただきました。エアコンも部屋の大きさや質素さに比べて過剰ではないかと思うぐらい立派なものを設置してもらいました。2025年3月、仮眠施設は無事竣工、引き渡しされました。（図2、図3）

このように立派な仮眠施設を作ってもらえることができ、観測に専念しやすい環境になりました。今後もより研究成果が得られるように一同頑張っていきたいと思っています。



図2：増築された仮眠棟の外観



図3：仮眠棟内部の様子